

アカガシラカラスバトへの殺鼠剤の影響について

1. 検討経緯

第3回の検証委員会において、ドバトの殺鼠剤への感受性が高いことが分かり、アカガシラカラスバトへの殺鼠剤の影響が懸念されることに對し、「殺鼠剤の個体への影響だけでなく、アカガシラカラスバトの個体群に及ぼす影響を評価すべき」との指摘があった。

そこで、11/27に行われたアカガシラカラスバト保護増殖検討会において、属島でネズミ駆除を行う場合に、殺鼠剤がアカガシラカラスバトの個体群に及ぼす影響評価を行った。

2. 検討内容

昨年度の同検討会において、「ネズミ駆除を実施することで、在来樹の生育状況が改善し、餌資源量の増加が期待でき、アカガシラカラスバトの繁殖環境が確保されること」が確認されていた。これに對し、9/4の第3回小笠原諸島ネズミ対策検証委員会において、ドバトで、ヤソジオン（ダイファシノン 0.005%含有製剤）を用いた殺鼠剤の感受性影響を検証した結果、従来との知見とは異なる高い感受性が確認されたことを共有し、「殺鼠剤のアカガシラカラスバトの個体群に及ぼす影響を評価」を要請した。

なお、議論に当たって、以下の前提状況を共有した。

- ・現在、兄島の陸産貝類が危機的な状況を迎えており、来年度、兄島全域における陸産貝類保全対策としてのネズミ駆除が検討されていること。
- ・平成22年に兄島・弟島等の父島属島において、ネズミ駆除を実施しているが、平成22年時点では、アカガシラカラスバトの目撃数はほとんどなく、殺鼠剤の影響について評価できないこと。また、平成22年以降、父島でのネコ対策が進められた結果、個体数が大きく回復しており、ネズミ駆除がどの程度個体数回復に貢献したかも評価が難しいこと。
- ・以上より、本検討会では、個体数の動態を評価し、アカガシラカラスバトの個体群の維持・増加に支障を生じない範囲の影響個体数について評価をお願いしたいこと。

3. 検討結果

- ・（平成25年度以降、個体数推定を行っているが）アカガシラカラスバト全体の個体数や、殺鼠剤散布時点で、兄島に在島している個体数がまだ情報不足であり、正確に評価できないので、個体群に対する影響がどの程度か、定量的には評価できない。
- ・ただし、限定された地域で短期的にネズミ駆除を実施するのであれば、ネズミ駆除によるプラス効果も含めて考えると、アカガシラカラスバトの個体群の維持に影響を与えるダメージにはならないだろうと考えられる。
- ・以上より、アカガシラカラスバト保護増殖検討会としては、殺鼠剤の散布は、兄島全体の生態系保全を考慮すれば避けられないことでもあり、アカガシラカラスバトへの影響という点からは、実施すべきと判断したい。
- ・ただし、実際にどうであったかのモニタリングと、何かあった場合の対応方針について予め整理しておくべきであり、とり得るミティゲーションについても検討すべきである。